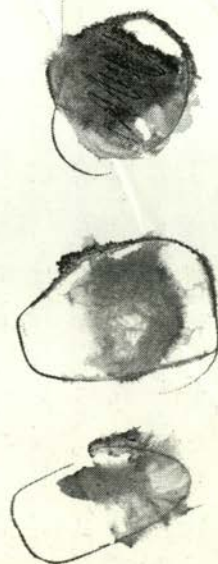


□随想□

# 神戸の よき時代



内海重典  
え・津高和一

大正十五年、私達一家は父の転勤から大阪をあとに、神戸の山手に移って来た。大阪の家が築港近くにあったので、移転の日は大きな汽船にのって神戸に来たことを憶えている。

今考えてみると、これは別府航路か高松航路の船で、当時は阪神電車にのっても、神戸まで二時間近くもかかったし、船とそう変らないということから海路の方を選んだらしい。

こうして私の神戸っ子の生活が始まったのである。その後、兄が大阪の市岡中学へ、国鉄が通っていたが、普通列車の三等車の板張椅子に腰をかけ、毎日、長時間を要する通学に、それが原因で病に倒れた事を思うと、大阪と神戸はずい分遠い距離であったようだ。

私の小学校は県庁のすぐそばの神戸小学校。それが地理の時間に「兵庫県県庁の所在地は何処

ですか」と先生に聞かれて、「神戸市下山手通四丁目です」と答えて大笑いされたことがある。

関西学院の中学部に通うようになった頃には、早や元町通いの味を憶えた。忘れもしない、元町二丁目にあった本庄写真館の奥の喫茶部は、当時の話題の中心であったようだ。美人のキャッジャイがいるとかで、中学生から大学生までが、盛んに出入りしていた。私達もグループでせっせと通い、その女性とも話合うようになったが、あちらから見れば、まあちっぽけな中学生がーということとで弟なみの扱いでみんなうまくあしらわれていたに違いない。それでも嬉しかった。

その頃、今も六丁目にある三一堂の二階の喫茶部は想い出の場所である。ここは、映画好きになった頃、目下は「映画の友」社の編集長で、テレビでもおなじみの淀川長治氏の、若き日の活躍場

所である。私もこの喫茶室で淀川氏と映画を論じるようになり、そして映画の見方といったことを数えられたところでもある。生意気盛りの中学四年の頃のことである。

中学を出た頃から今度は本庄喫茶部で、当時の宝塚作家連中を囲んで座談会をもつようになった。映画ファンから宝塚ファンになった頃の私。だからこの二つの喫茶店への出入りが宝塚へ入る動機となったのかもしれない。

昭和八年頃だったか、神戸の港まつりが始めて行われた。

その夜の元町通りの雑踏ぶりは忘れられない。私が宝塚へ入る前に、大阪の松竹で、レビューの仕事をしたので、そのスタッフと、秋月恵美子や芦原千津子を誘って、このまつり見物に出かけたことを記憶している。大変な人出で、なんどかはなればなれになった。元町が人で埋るなんてことは、ついぞその後経験したことが無い。―神戸の人はみんな祭に酔ったのであろう。純粋いな神戸っ子時代という感じだ。

静かな山の手通りも忘れられない。

山手に住んでいた頃は、あの坂道が、自転車に初めて乗った私のよき練習場であった。タクシーなど殆んど通らぬ静かな住宅街であった。それだけに夜のデイトにも又よき処で、諏訪山や神戸女学院のあたりは、神戸情緒が満喫された処だ。

須磨は、楽しい神戸っ子の海水浴場だった。毎日市電にゆられてゆく海、いくらだったか忘れたが、海水浴へゆく赤い割引往復券をしっかりと握って通ったものだ。いまは汚い代名詞の妙法寺川

が、私達の泳ぎ場であった。すき通った水の中心へ、何度頭からもぐらされたであろう事―関東だきを食べ、ひやし飴をのむ楽しさは忘れられない。

六甲山、摩耶山、そして再度山の登山は、神戸っ子なら、誰れでもなじんだところだ。特に再度山は、今もつづいているヒヨコ会というのがあって、毎朝山上の茶屋まで登り、コーヒートとぶ厚いトーストを、美味しく食べたものだった。

大水害は神戸市を一変させた。それまで、横筋のすみずみまで舗装されていた神戸の道、そのアスファルトが一瞬のうちにハガされて、ホコリッポイ町に変わった。

そして戦後。すでに宝塚入りしていた私は軍の慰問に生徒を伴い湊川公園近くにあった神戸の高射砲隊を訪れた。そのとき、隊長は「神戸の町には敵機は一機たりとも入れません」と力強い約束してくれていた。しかし火の海になった神戸を、灘にあった我が家の物干から眺めて悲しい思いであった。その頃、父の住んでいた湊町、あの火の中で、父はどうしているのだろう―神戸の面影は消えてしまうぞと、涙ぐみながら、その魔の火えんを眺めていた。家は焼けたが父は無事だった。

神戸は大好きな町だ。すっかり変った神戸だが。元町、センター街を歩くのは今でも好きだ。

だが静かな美しい情緒のある港の町という印象は、排気ガスと共に消されてしまったようだが、これが現代の神戸なのかも知れない。いや世界中の美しい都会が、そんな変ぼうをなしつつあるようだ。

△演出家▽



□随想□

# ビールと原爆

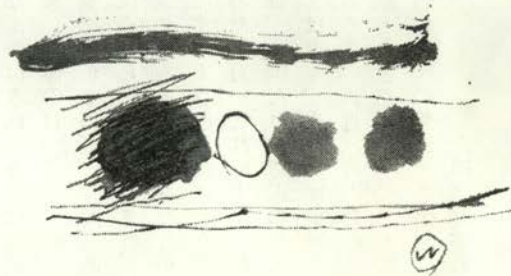
古林 喜楽  
え・津 高和 一

梅雨去りてビールの季節となりにけり。十年前イギリスで、ロンドンというところは、ビール党にとつて、不自由なところだなアと思ったことがあったが、今度はアメリカで又同じような経験をなめた。ロンドンでは夕方の五時半になるまで、門戸は閉ざされている。十時半には百貨店の終りのごとく追い出される。いやしい飲み助たちは、十一時が門限のピカデリーへと車を走らせる。あと二十分ぐらいの残り時間にさえ、未練が断ち切れないのである。

今度の訪米はロサンゼルスでは、バサディナにあるカルテック（東のエム・アイ・ティと並び称せられるカリフォルニア工科大学）のキャンパス内にある宿舎に泊り、ブルーミングトンではインディアナ大学の構内にある宿舎に泊るというようなことであったので、ビールとは勿論縁が断たれ

た。敷地がなんと百五十万坪のインディアナ大学の一角に閉じこめられたのでは、車がないことには、暮夜ひそかに抜け出して、そとへ出かけるというわけにもゆかないのであった。しかしこれはこれでまだしもとして、ニューヨークでは一流の一流ホテルに泊ったのであるが、午前は十一時までありつけないし、日曜日にはそとへ出ても午後一時までは門前ばらいである。その時のあいさつの不愛想なこと、今日が日曜だということを知らねエのか、と言わんばかりのつつけんどん振りであった。

一行の教授たちは、私に同情していろいろ気をつかってくれ、ひそかに私の部屋に缶ビールをもち込んでくれたこともあった。インディアナ大学の教授たちは、どこで聞きこんだのか、交代で自宅によんでくれて、存分に味わせてもくれた。だ



から同情されるほどには不自由もなかったのであるが、アメリカとお別れの最後の日、サンフランシスコで五月三十日のメモリアル・デーにぶちあたり、一日中ありつけないこととなった。追悼の日の一日ぐらいは慎んでいたらいよいよものを、そこは人間のあさましき、断たれると却って欲望がいや増すもので、ホテルを一人で抜け出した。サンフランシスコともなると、立派なチャイナ・タウンもあり、街をぶらついてみると、次から次へと日本人や日系人に出あう。根気よく会う人ごとに、一寸おうかがいたしますがを続けているうちに、そこはじやの道は蛇というわけで、チャイナ・タウンの一隅に、治外法権のロカールを探しあてることができた。太平洋岸でご自慢のバットワイザーなるビールは、まづいのが定評のアメリカのビールにしては、まだしもの方ではあったが、禁断の日のことでもあったので、私にとって

は全くの甘露であった。私はこの頃ビールを半分は健康法としてたしなんでいる。だからひとのように酔うためにのむのではない。アルコールが血液のなかに入らないような飲みかたをしている。だから顧りみて、ビールをのんでもやましい思いをしないのであるが、流石この日は、ジョッキを重ねているうちに、良心のうずくのおぼえ出した。アメリカ人は今日は、戦没者を追悼し墓詣りをしているのだぞ！それなのにお前は何たるさまだ！というような声がささやくように思えた。

私はスタンドで思いに沈んで行った。追悼の日という休日、メモリアル・デーという祭日、私はいたたまれなくなつて、急ぎ勘定をすましてそと

へ出た。思いは日本へはせてゆく。今ごろ日本では、建国の日で大騒ぎをしているのであろう。片や追悼の休日、片や建国日祭日の大騒動、こころで思いつめたときに、私の頭にフト浮んだのが、今年もやがて訪れてくる原爆の日のことであつた。原水禁というような人類の悲願の行事がなぜ三つにも分裂して、世界に醜態をばくろし、世界中の物笑いになるような恥をさらすのであろうか。平和を念願する世界中の人が期せずしてきゅう然と集まるであろうこの行事に、なぜ悲願を抱く人たちを寄せつけないようにするのであろうか。こんなぶざまなことになるのであれば、思い切つて当分行事をみんなやめてしまった方がよいのではないか。そしてすべてを一度白紙にかえして、ほんとの姿で再出発する方途を考究すべきではないか。

こんなことを考えているうちに、問題の多い「建国の日」なんかはきれいさっぱりあきらめて、八月六日を「追悼の日」にし、静かな休日のあの時刻に、全国民がせめて一分間、あの痛ましい原爆死没者に心から黙とうをささげ、彼等の冥福を祈りつつ、二度とあの惨劇をくりかえさない決意をあらたにするようにしたらどうであらうかと思うにいたつた。万一これが実現したら、一国だけの追悼の日、一国だけの建国の日というようなせまいものではなく、やがては世界中の追悼の日ともなるであらう。八月六日のあの時刻に、世界中のものが黙とうをささげつつ原水禁を誓う。そこにこそ世界の平和の芽が吹き出してくるので

はなからうか。  
 △神戸大学名誉教授▽



□随想□

六甲名花

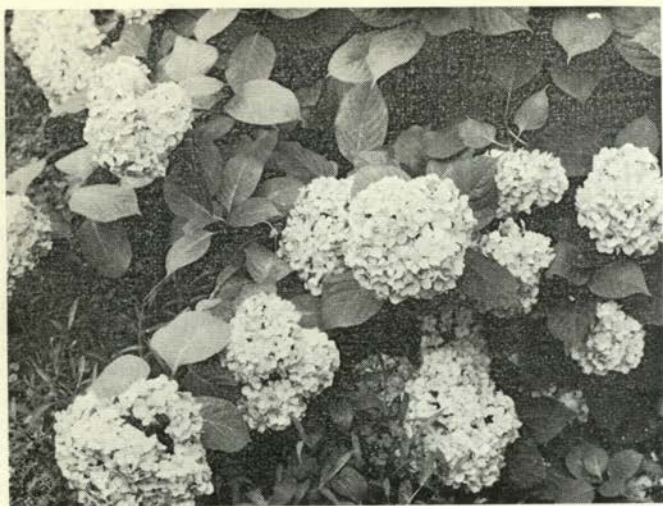
# アジサイ

## 哀話

室井

緯

△写真も▽



★上はガクアジサイ  
次頁のアジサイはシチダンカ

アイアイ、ワタクシノ、ハナツコハ、アジサイ  
トモウシマス、フビンナコデ、ゴザリマス……コ  
ドモヲタズネテ、イズカラ、オヤマニ、ノボリマ  
シテゴザリマス……テン、テン。

と聞きたれないほどかすかな、うめき声に等しい  
哀願である。短いながらも子を思う親の一念には  
わりがない。ことにアジサイという子供は性的の  
不具者で親の苦しみは一層よく判って貰えようす  
さて、本論に入るに先だって親であるガク、す  
なわちガクアジサイから話をすすめよう。

ガクアジサイとは額アジサイで、花の周辺花ばかりがはなやかで中央の花は、もっぱら生殖という子孫をつくるおしべ、めしべがよく発達している。そしてもとは伊豆半島あたりの海辺に自生していたものである。人並みに開花、そして時期が到来すると恋愛もし、子孫を作るという一般生物並みの生活が続いているということには変わりがない。

ところが何の因果か、その花のなからアジサイというおしべ、めしべの恋愛の道具をすっかり返上してしまったウマズメノコである。すなわち性的の不具者の花っ子のアジサイが生まれてしまった。続いてこともあろうに六甲山頂という寒い悪環境に鞍替えというか、転売されてしまったから、まったくたまらない。幸か不幸か挿木でよく活着するということから生身を割いては挿し木するのである。

このアジサイに交じってごく近年に親であるガクアジサイが子供をたずねて登りついた。巻頭の片仮名文は、このときの不憫な子を思う親の一念である。この初対面の現場こそ、かつて石童丸と荳荳御坊との喜びを義太夫の言葉を借ると「言うより先きは我が子かと、見れば見るほど、稚な顔、疑いもなき我子ぞと、言わんとせしが待てしばし……さぞ嬉しくも懐しく飛びつくほどに思ひけん……」と三味線の音とともに現場の光景が思い浮んでくる。

六甲のアジサイの藍色は眼にしみる冴えた美しさである。この美しさは八月いっぱいも、この色が得られるところに値うちがある。下界の市街地では六月の下旬に、すっかり茶褐色となって美しさを返上する。

この美しさは六甲特有の多湿、夜の低温、それに花崗岩という酸性岩のおかげである。この条件は金では解決のできないむずかしさがある。

六甲山で花を眺めていると、この花卉、むずかしく言うところの真紅色のものがあるが、これは西洋アジサイと呼ばれ、日本のアジサイが西洋の土を踏んで貫録をつけたというか、洋行帰りのという

ところだ。

ちょっと面倒臭いがアジサイは学名をハイドラングア・オタクサ・ジーボルトと言う。ジーボルトは日本滞在中、この花を愛し彼の愛人であったお滝の名を永遠に記念するために命名した。

右のいきさつを考えてみるとアジサイこそどの面でも浮ばれぬ不幸な運命を担った花なのである。

なお、六甲山のアジサイの話になると、もう一つ紹介したいものがある。それはシチダンカとい



う珍品で、今から百五十年前も前の文政六年に前出のジーボルトが日本のどこかで、本種を持って、花を星に見たててハイドラングア・ステラタ・ジーボルトと命名した。その後、日本はおろか、世界の誰もが発見できなかったが、偶然にも七年前に六甲小学校の用務員荒木慶治さんが六甲ケーブル沿線で発見し、私に示された。私が飛びあがって喜んだのは読者に想像して貰えよう。この花もお気の毒にも性的不具者で、実を結ぶことができない。いま六甲山頂で植えているのは荒木さんの発見したものを挿木してふやしたものである。

△県立兵庫高校教諭▽



LONGINES

ロンジンをおもてめのときには  
神戸でもっとも豊富にロンジンの  
そろったさんちがファンシータウン  
美田時計店へおこし下さい



特約店  
**美田時計店**

元町店・元町三丁目 TEL33-1798

三宮店・三宮地下街 TEL33-8798

お中元  
ご贈答に..



北 欧 の 銘 菓  
**ユーハイム**  
コンフェクト

本社・工場 / 神戸熊内町1丁目 TEL22-1164・9865  
熊内店 / (市立美術館東隣)

三宮店 / 神戸三宮生田筋(階上喫茶室) TEL33-7343・0156・4314

神戸デパート店 / 長田区大橋5丁目 TEL61-2101

甲子園店 / 国鉄甲子園口駅(北口)・芦屋店 / 国鉄芦屋駅南通・堂島

営業所 / 大阪堂島中町ビル地階・梅田店 / 大阪梅田地下センター・

栄町店 / 名古屋栄町ビル地階・千種工場 / 名古屋千種区若水町・大

丸店 / 神戸・京都・阪急店 / 神戸・大阪・三越店 / 神戸・丸栄店 /

名古屋・オリエンタル中村 / 名古屋・大阪国際空港・神戸鉄道弘済

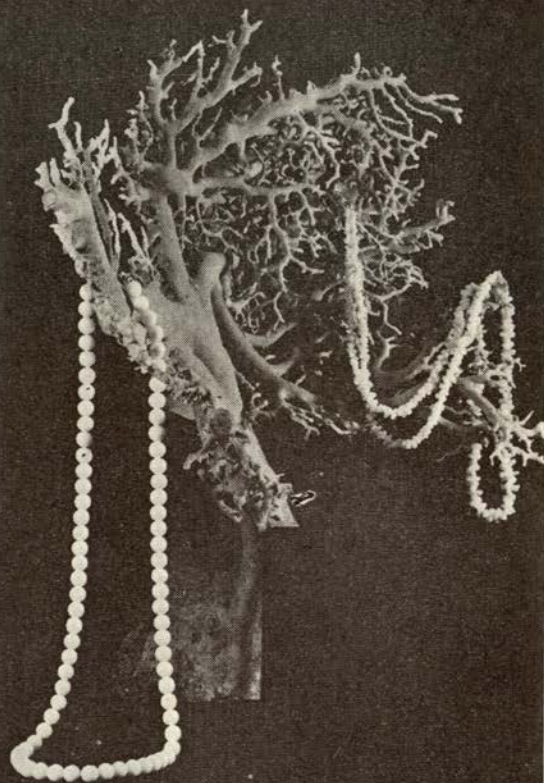
会・丸物店 / 岐阜・豊橋

夏のモードをかざる  
WAIKIKI GLASS



👁 **神戸眼鏡院**

元町3丁目 TEL (33) 3112 代  
さんちか店 TEL (39) 1874~5



nomiyama さんごとカメオ専門店

**ノミヤマ**

神戸国際会館アーケード TEL (22) 8161 (内線) 333  
本社工場  
神戸市葺合区上筒井通1ノ20 TEL (22) 2070





## □神戸っ子対談□

△写真・秋田 博正氏△

# 神戸の繁栄に創意と工夫を

秋田 博正 △正興産業KK取締役社長▽

雀部 虎四郎 △阪東調帯ゴムKK取締役▽

雀部 秋田さんは神戸は先祖代々なんですか。

秋田 私は生れは山口県下関で熊本の五高から東大を出て商工省（現在の通産省）に入り、昭和24年に辞めまして父が社長をしていた日本汽船の専務になったんです。

通産省に居ました時、金融関係を担当しておりまして当時復古金融資というのがある、融資懇談会が神戸の日銀で毎週あったんです。家内の父が当時神戸銀行の頭取をしておりまして、よく会議に出席したんで帰りにご馳

走してもらうのが楽しみですね。（笑）

雀部 私は横屋の方なんですがまあ神戸ですね。

成長した神戸青年会議所

雀部 秋田さんは神戸青年会議所（神戸J・C）の生みの親であり、また初代会長としてご尽力いただいたわけなんです。初代というのは云うに云われぬ苦勞がおありだったと思いますが……。

**秋田** 青年会議所が日本で初めて声をあげたのは東京なんです、そのとき創立に尽力された人達がたまたま私の親友が多かったんです。それで私にも「お前も入れよ」ということで東京J・Cにもしばらく籍をおいたこともあるんです。その後、神戸J・Cも創るべきだという話が度々東京・大阪であったわけなんです、戦後神戸の財界も若返りまして、当時J・Cを創ったら会議所の人、経済同友会の人、ロータリーの人といつも顔を合わせている人たちが、またJ・Cで顔を合わせる。これでは存立の意味ないし存立すら困難ではなからうかというようなことで延び延びになっていた。

ところが、昭和33年に大阪が神戸財界の諸先輩に猛烈に働きかけて、とにかく何がなんでもやれ、ということになり引き受けたわけなんです。私は当時、J・Cに対して何かブチ・ブルめというのか甘さがある。まだ若くて大いに働き、また大いに自らを磨くべきときであるのに社会奉仕をしたり自己満足のな動きがあるのに反感を感じていました。それで、私はやる以上は、そういう甘さを取り去った経済問題を中心とする、若い人の集まりであるけれども大人の青年会会議所を創りたいという氣持を強くもって発足にあたったわけです。

当時、この事が出来るんではないかと思ったのは、初めのころから7・8年たって、いわゆる40才以下の年齢層にもかなり人材ができて、これならJ・Cが構成できるという自信もありました。その後、非常にいいメンバーに恵まれて現在会員数は日本でも三位とか、国際的、国内的にも表彰されずくめで創立にあずかった者として喜んで、また感謝もしているところなんです。

**雀部** 今のお話しても現在のJ・Cのメンバーが反省し、考えなければならぬ示唆を含んでいると思うわけなんです、そういった諸先輩方のご指導の中で、J・Cというのはなにをなすべきなのかというようなことも考えながら充実してゆきたいと思えますし、本年は11月に全国大会を神戸で開きます。その全国大会を神戸でやる

ということも最初は、果して立派にやり遂げるだけの實力があるのか、どうかということも問題になりました。しかし、そういうことを考えてばかりではいけない、この神戸で、我々の手でやってみせようという勇氣と情熱が必要ではないかということとやることに決まったわけです。また、全国大会の直後に京都で世界大会がありますので国際的なお客さまも沢山おいでになる。大体6千人位来られるということで、目下準備に大わらわなんです。

我々も最初からメンバーに加えていただいてやってますが、もうひとつ勉強不足でJ・Cマンとして威張れるようなことまではやっておりませんが……

**秋田** いや、いや、雀部君なんか私がJ・Cとしてかくあってももらいたいと思っていてその線のチャンピオンみたいなものです。

**雀部** そういわれると恥しいですけど（笑）今度の大会もただのお祭り騒ぎではいかんと、せっかくそれだけのお客さんが来られるんだから神戸の経済的特色を大いにPRしたいということで物産展を開催する。ゴルフとかボーリングといった一切やめて、分科会中心でやる、といったことが一応まとまりまして物産展の担当を仰せつかりましていろいろやっております。（笑）そういう意味で、自分自身のトレーニングと、もうひとついろんなことをやるのに基礎となるような、基本的な問題のつっこみ方が足りないんじゃないかという感じは持っているんです。

**秋田** 容易なことではないと思いますが、神戸J・Cも8年になるでしょう。充実もしてきたし、この際多少とも各地のJ・Cにおつとめすべき時でしょう。それに共にひとつの行事をやるということは会の団結も高めますし、いい意味でのトレーニングにもなるわけで、私は必ず神戸J・Cが成功すると思えますよ。神戸らしいユニークな大会になって欲しいですね。

神戸に流通センターは必要だ



雀部 地元に居りながら不勉強のいたりなんですが、兵庫県の物産というのは、非常にバラエティーに富んでいますね。

秋田 兵庫県というのは、重工業もあれば海運、貿易、農業もある。私は農業問題というのは大事だと思うんですよ。誰れでも多かれ少なかれ必ず関係がある。

農業が今日ほど重要なウエートを占めている時期はないと思うんです。物価の問題に関連し、あるいは兼業農家の問題とかいろんな問題を含めてね。この間も同友会から農業問題に対する流通問題に関して提言をしたんですがね。

雀部 その流通問題ですか、生鮮食品などの流通センターが神戸に必要だということについては私も考えるところがあるんです。最近道路の問題、その他経済開発的な問題で物的なところが主になっている。しかし、神戸が例えば西日本経済とか近畿経済圏の中でひとの使命を果す

うということであるなら、やはり神戸がそれに適當であるかどうか、神戸としての役割を果たすということが大事だろうと思うんです。その点について、もう少し流通センター構想をお聞きしたいですね。

秋田 その前の問題になるんですが、私は神戸のあり方ということについても考える必要がある。私は神戸には深い愛着を持っています。が、世の中は変わってきているんです。戦後政治・経済の中心は東京に移っている。神戸を昔ながらの神戸として繁栄させようという考え方は適當ではなく、現在の世の流れに沿った線で神戸の繁栄、発展を考えないといかんと思うんです。だからそういうやり方で神戸で発展しやすい企業をもちこむことですね。

さっきおっしゃったように近畿経済圏というものの一環として神戸を考える。京阪神なんか東京と同じに考えてもいいんじゃないかと思えますね。大きなマーケット、

△写真・雀部 虎四郎氏△



大きい需要というものを喚起して、大きい消費・供給が行われるという考えの方が発展も大きい。神戸は海運、船の集散地の中心ですし、播州工業地帯あるいは阪神間という消費地を控えている。だから京阪神を一带とした大きな経済圏の中での流通センターというものは神戸にぜひつくらないといかんと思いますねえ。

この間も灘生協の田中組合長と流通問題でお会いしていろいろ話し合ったんですが、陸上関係ではどうしても制約があるし経費もかかるんで、国内の流通ももっと海上輸送に切りかえないといけない。海上輸送も今までより合理化された方法でコスト・ダウンに成功するのなら新しい神戸港の飛躍もできる。創意工夫というか、とどまらざる改善・努力というものが繁栄には必要ですね。

雀部 それが結局、物価対策にもなるというわけですね。

#### 販売と金融は会社経営の両輪

雀部 私なんかは経営の一部門しかやっておりませんが秋田さんは全社的な経営のご苦労もおありでしょう。ひとつ、経営哲学をお聞かせいただきたい。

秋田 私共、まだまだ若輩で……(笑) そういうことを語る資格はないんですが、やはり世の中が必要とするものを自分の仕事にしたいと思えますね。また世の中が必要とするということは当然、そのよってくるいわれがあるわけですから、その線に沿った仕事をする。そこに社会的な意義もあれば、自分の仕事も繁栄するという……(笑)。

三鬼陽之助さんが、これからの経営者の資格は販売能力にある、ということを書いておられるのを見たことがあるんですが、こう企業の競争が厳しくなるとそうなると思いますねえ。販売といっても何も物を売るということばかりではなくて、海運の場合は荷物を集めるという意味もひくくって、営業活動に重点を置いた、という風に解釈して、私も最近では未熟ながら販売に全力を尽しています。

雀部 それも社会が要求している仕事をやるという考え

方から、お客さんを大切にしなければいかんということでしょう。

秋田 販売と金融は会社経営の両輪でしょうね。金のことを忘れて経営をするという、こんな無茶なことではできませんからね。それを営業の基本としてゆかなければなりませんねえ。

雀部 最近では中小企業問題にしましても、金融問題が大きく取りあげられておりますが、私は、むしろ、本質的には労務管理だとか経営のやり方、細かく掘り下げてゆくと生産の問題点をつかむ、そういういろいろな問題を改善してゆく人を創りあげることが中小企業には欠けていると思うんです。そういうった人の養成の問題とか、お客さんの問題がスムーズにいけるような態勢にあれば金の方はむしろ従いてきてくれると思いますね。

秋田 たしかに収支の改善はなくして金融でつなぐ、という考え方は避けるべきだと思います。だから、何とかつづまを合わせるという考え方はやめて、何事も真正面からぶつかって解きはぐしてゆく努力が必要だろうと思いますね。

雀部 それが、大企業と違って金あまり回ってこないからやりにくいし、金を借りるにしても高い金利で借りなければならぬ。というようなことが強く表面に出てまして、経営の本質をよそへおいといて、という感じがします。

秋田 中小企業の場合、大企業より信用が弱いのは当然ですから、その特殊性ということについては配慮をして欲しいと思います。誘い水になるような金融の場合ですね、これはぜひ、政府なり金融機関なりをお願いしたいですね。

むしろ、気構えとしては自らが収支を改善して、自然に金融がついてまわるというようにすることが大事だと思いますがね。まあ、これまでいろいろやってきて金融でつなぐというところなことないですわ。やっぱり技本の解決が大切ですね(笑)



## 経済ポケット

### ジャーナル

#### 神戸産業界の注目をあつめる川崎グループ

資本自由化などを控え、このところ産業界の再編成は活発化しているが、神戸でも川崎重工、川崎車輛、川崎航空機工業など川崎グループの結束強化が注目されている。元来、一社だけでなく企業が戦後の財閥解体などで分割されていたものだけに現在の機種調整や共販だけでなく、今後は企業合同など思い切った方向に動くのではないかとの声も有力である。

ことに川崎グループではこれまで川鉄、川崎汽船などを加えた七社でグループ開発委員会(委員長四本川崎航空副社長)を結成、作業を進めているが、今回社長クラスで結成する機会も具休策を急ぐとの方針から加藤川重専務を中心とする専務クラスの特別部会を発足。いよいよ「一体化」ムードも盛り上り産業界の脚光を浴びてゐるわけだが、グループは神戸産業界の中心だけに「神戸っ子」として

も看過できない問題だ。

新会長をむかえて

活気づく神戸貿易協会

神戸貿易協会の新しい会長に三共生興社長の三木瀧



新任された三木会長

蔵氏が選任され、大いに期待を集めている。

同ポストには長らく兼松会長沖豊治氏が敏腕を振っていたが、商議所副会長、新商議所会館建設委員長など業務約多忙に加えて、各種の仕事が多く、かねてから辞意をもちいていたので、積極さとして行動力を買われて、三木氏が選任されたわけだ。なんといっても神戸は海運、貿易の町であり、貿易業界は後進国の巻き返しなどから、ここ数年、苦しい立場に追い込まれてい



どころ。

心配される  
西山鉄社長

神戸財界の大御所と自他共に許す川崎製鉄社長の西山弥太郎氏が長期的な病いに倒れ、神戸経済界の心配のマトになっている。

同氏は戦後、小企業川鉄をひき、世界的な千葉工場建設、現在では水島製鉄所を建設中などその馬力と決断力で八幡、富士に次ぐ大製鉄所づくりに成功した歴史的な人物。日本財界でも重きをなし、文字通り神戸の第一人者として若い人にも絶大な人気があるが、いかにせん病状は、はかばかしくないようで、一部では再起の見通しが危ぶまれているようだ。

もちろん、後継者には藤本、野利添副社長などが控えてはいるが、西山氏が「天皇」の異名すら持ち、あまりにもその比重が大きかっただけに同氏が再起しない場合、神戸の政財界に「大穴」があいた感じになりそうだ。

中小企業の人手不足  
解消に新アイデアを

景気がよくなるにつれて、中小企業の人手不足が一般に強く表面化してきたが、さりとて法外な給与も出せずと、アノ手コノ手の対策が打ち出されている。中でもゴムメーカー、山地ゴム工業所(山地半次社長)のように中高年婦人を積極的に活用、見事、人手難を打開した新ケームもあり、アイデアマン「神戸っ子」の本領いかんと大阪商人たちからも注目されている。もちろん山地の場合、日給制、能率給などを併用、単純な作業を婦人労働力に替えているわけだが、山地社長は「婦人たちも内職より収入がよいし、会社側も大いに有利。まさに一石二鳥とはこのことです」と自慢している。

#### \*KOBEオフィスレディ\*



中谷 恭子(20)兵庫日野自動車KK勤務  
五人兄弟の末っ子で茶目気たっぷりのお嬢さん。武庫川短大を卒業して今年四月に入社したばかりのはやはやOL。趣味は音楽鑑賞一番好きなことは「食べること」。旅行も大好きで、近く運転免許をとりたいと大ハッスル。社内の評判もすこぶる良く人気者。『ボーイフレンドは?』と聞くとにっこり笑って「ノーコメント」……。

優雅と気品ある  
仲庭の宝石  
貴金属・時計



宝石・貴金属・時計

**仲庭**

さんちかタウン (39) 4593  
梅田新道 堂ビル北 (364) 0215  
桜橋 毎日新聞社前 (341) 0412  
新大阪ステーションストア  
大阪ロイヤルホテルセイコーショップ

ENJOY

ということばをご存知ですね。それは  
ENJOY a Good Shopping  
という場合にも使われます。丁度あなたが  
スタイルアオイでお買物の散歩を  
されるときそう申します。

ビーズバッグのシーズンです  
豊富に取り揃えております



高級舶来品の店

三宮センター街1丁目 **STYLE aoi**  
スタイルビル4階  
39 - 3985



—神戸ドキュメント—〈7〉

# 神戸少年鑑別所

有井 基

「少年非行の問題は、社会の裏道です。話題が暗すぎるんじゃないですか」

神戸少年鑑別所の多久和興所長はいった。なるほど裏通りの問題かも知れない。だが、本来は裏道の問題が、表

通りに出て目につきすぎる。暗いからとて、目をつむれないのだ。

兵庫区下祇園町の一角。家庭裁判所と市電平野線をへだてて東へ折れて三十メートル。外見からして、まことに無愛想な建て物である。ことし二月、石井

法相は少年法改正の予備知識をつけるため「ネリカン」東京少年鑑別所をたずねた。その時、あまり殺風景なおどろき、所蔵の絵を贈った。神戸の内部も、殺風景さに変わりはしない。

もっとも、絵や花で飾りたてても、非行という事実があるかぎり、殺風景な印象は消えるまい。はじめに訪れた日、多久和所長が不在で会えぬまま、私は灰色のコンクリートべいに沿って歩いた。庁舎の受けつけに、たぶん面会か差し入れに來たのだろう。どこことなくひっそりとした人のかたまりがあった。歩きながら、その一人一人の顔を思い浮かべた。みんな目が小さかった。力のない、かつた目。

暑さのせいではない。くたびれたあの人たちの、伏し目は、親の、兄や姉の、子供にわびる目ではなかったか。わびはしても、それ以上、どうすることもできない。無気力な目



＜うす緑のドームが目立つ神戸少年鑑別所＞

でもあった。

いったい、何をどうすればいいのか。

少年非行の問題は、

すでに、いいつくされて

いる。いいつくされて

いて、なすべ

きことがかどらな

い。この、高いへい

で「隔離」された少

年は、いま百二十人

いる。例年、九月に

急増して定員百四人

をはるかに越す。夏休みで非行がふえるせいだ。その九

月も目の前。打つ手はないのだろうか。

神戸少年鑑別所が一年間に扱った件数は、四十年には

二千五百五十三人。うち少女二百六十九人で、ざっと一

割。扱い件数からいくと東京、大阪に次いで三番目だ。

ご承知の通り、児童相談所や警察から送られてきた犯

罪少年を収容し、四週間を限度として、日常行動を観察

するのが役目。少年鑑別所処遇規則によると、

「少年を明るく静かな環境に置いて、少年が安ん

じて審判を受けられるようにし、そのありのままの姿

をとらえて資質の鑑別を行うよう心がけねばならな

い」(第二条)

「鑑別には、少年の素質、経歴、及び人格ならびに

それらの相互関係を明らかにし、少年の矯正に関して

最良の方針を立てる目的をもって行わねばならない」

(第十七条)

鑑別の結果で、在宅保護、あるいは少年院や教護施設、精神病院へ、それぞれに適した措置を判定、裁判の

資料として出す。

私が、論じつくされた問題の整理のために、鑑別所を

選んだのは「ありのままの姿」から「資質」を見きわめ



＜少年非行問題を語る多久和所長＞

「少年の矯正に関して最良の方針」を、さぐってこられた多久和所長に、お話をうかがいたかったからだ。

「いま、百二十人ばかりのうち、殺人を犯したものの三十人がいます。彼らを見ても、環境因子が、断然、優勢なのです。父親が

酒のみで家族を困らせるから、というケースもあり、ほとんどが崩壊家庭の子弟ですね。垂水でタク

シー運転手を猟銃で射殺した東京の少年も、いまおりますが、やは

り家族のあつれきが原因です」

非行の内容をみると、男では窃盗(一〇五三人) 恐

つ(二二二人) 傷害(二七九) ぐ犯(二四六) 強かん

(一三四) の順。女ではぐ犯(一五五) 窃盗(六七) 売

春(一六) 強盗(七) となっている。年令別では男が十

八歳(二四・八二%) 十七歳(二四・一二%) をピーク

とし、女では十七歳の二九・三七%が最高。

「女子の犯罪は見落とすことが多い。ノート一冊ぐら

い、女だから、と軽く見ているうちに、罪を重ね、気が

つけば、はい上がれぬ状態におちこんでいる。女は立ち

直りにくいので、どんな小さなことでも反社会的行為

は、小さなうちに芽をつみとるべきです」

さらに、神戸市衛生研究所が、収容児に梅毒血清反応

をおこなった。その結果、少年の陽性者二・八%にたい

して少女は一四・二%。しかも十九歳の女子では二一%

の高率だった。少女が家を出て、食うためには、売春が

最も近道だからだろう。

崩壊家庭も、もとをたせば貧乏から、ということも

ある。しかし、それにしては統計上「極貧層」「下流

層」が減り、「中流層」「上流層」の増える傾向にある。

原因は「学校教育のゆがみです。いまの教育は、点



取り競争で、友情といったあつちものの育つゆとりがない。逆に人をけ落とすための競争心ばかり植えつけられて、敵意を養うようなものです。学校で暖かくかかえてもらえば非行も防げるのです……」

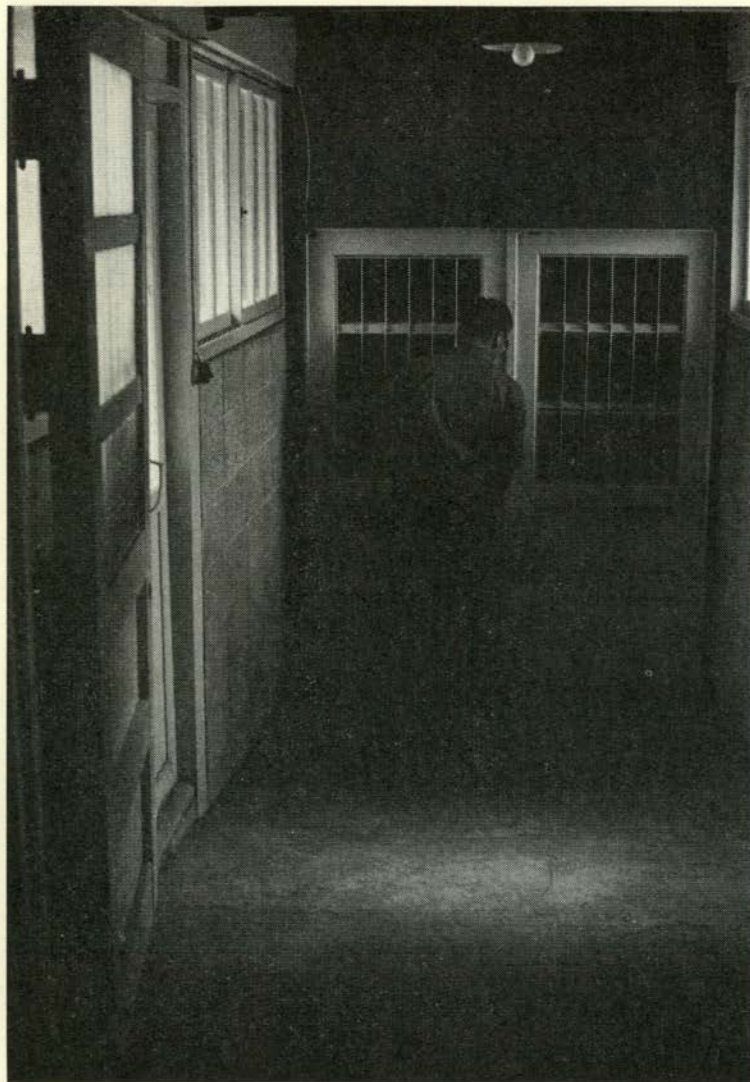
進学勉強の足手まといになる生徒は、切りすてられる。心を合わせる友だちもないし排他性が身についている。いきおい感情のやり場がなく、ブレーキのかからぬまま衝動的にコトを起こしてしまう。

「体格だけはオトナなみでも、知能は小学四・五年といた子供が、前後の見境もなく罪を犯す。オトナは強制収容すると神妙になるが、子供は入所して四・五日もしたら忘れて童心に返っている。罪の意識がないんじ

やなくて、まるきり子供なんだ。よく子供が、いま泣いたと思えば、すぐケロリと笑うでしょう、あれですよ」オトナ顔負けの凶悪犯罪をやるから、ついオトナの目で、彼らを見てしまう。しかし、まだ成長への過程にあることもだ。その意味で「未成年」なのだ——という。

ここ数年来、法務省は十八・九歳の凶悪犯罪がふえているのだから、少年法の適用は十八歳未満にして、十八歳から二十二歳までを「青年」にしよう。そして家庭裁判所の措置は生ぬるいから、検察官が先きに刑事責任の面からとり扱うことにしたい、といいつづけてきた。

これと対立して最高裁は、少年の将来を傷つけないため、教育主義、保護主義の原則はゆずらない。個人の環



＜社会と少年達をさえぎる罪＞

境や資質に応じて個別的に処遇する。そのためにも先議権は中立的な保護機関である家裁に残すべきだ、と主張してきた。

しかし、この対立は、刑罰で封じこむか、教育で善導するか、という単純な問題ではない。法律は、現場の実際の運用に即して、冷静に考えられないと、効力を失なう。

「どうしても社会復帰できない。いわゆる適応能力に欠ける者がいます。女子は結婚が特効薬だが、男は救いようのないのが残るのです。ここでは子供なりのまま屈託がないのに、外へ出ると顔つきが変わる。保護司などと新聞地付近でよく見かけるのですが、それは決して自分を防衛するため本能的に身構える硬さじゃないですね。グレン隊に入って怠けて食う、それしか生活能力がなく、すでに、ゆがみが体質化しているんです」

だから多久和所長は、保護すべきものを、保安上処理すべきものと「鑑別」することが大切であり、それ以前に、学校教育が血の通ったものにならないと、非行は防げない、という。

現実には、入所八回という男子四人がある。七回(四人)六回(十一人)五回(五五人)四回(一〇五人)三回(二一六人)二回(四七五人)……という数字をみると、「教育による善導」がむなしく思えるのも当然だろう。資質と環境を見きわめて守れるものは守っていく、しかし、責任能力のない者には刑厳で法の精神を徹底するほかはない。

西ドイツの故クレッチメル博士は、少年非行には素質も原因しており、責任を環境にだけなすりつけるのは意

思薄弱の証拠だといったが、自分を正当化することの、まことにうまい連中もいる。

正義がないから、やむなく暴力団へはいったのだ。就職さえあれば……

一度の盗みで少年院に入れられた。出て来たら人が白い目を向けるので、少年院で知り合った仲間とくっついた……

これが正当な理由である場合も少なくない。だが、同じように口実に使って同情をひく手合いもある。一律に「だからヤツらはダメなんだ」と決めつけては間違いを犯す。

そのために鑑別所があるのだが、鑑別の、具体的なケースは聞けなかった。時間に追われていたせいもあるが、これまで論議しつくされた問題を、大ざっぱになぞる作業におわった。この道十六年、多久和所長の深い経験に触れているうち、せっかちに結論を求めることの誤りを知ったからでもある。



＜社会のゆがみが非行を生む＞

家庭、学校、職場、地域の、それぞれ単位で協力しながら長期的な対策を組もう——中央青少年問題協議会は、意見書で、こう強調した。もう何年、同じことが繰り返しいわれてきただろう。

しーんと静まり返った廊下に響く鉄格子のドア。幾重にも重なったドアに、いちいちカギをあてる職員。放課後の学校が鉄のオリに変わったような、その沈黙の底で、若い彼や彼女は、何を思い、何を考えているのだろうか。

灰色の制服を着た少年たちは、はたして無邪気に童心を遊ばせているだろうか。童心と呼べる、いきいきとした素顔を見せているだろうか。たった一人見かけた、小柄な少女は、泣きはらした目を指でかくし、テレたように笑って通った。

〈神戸新聞記者〉

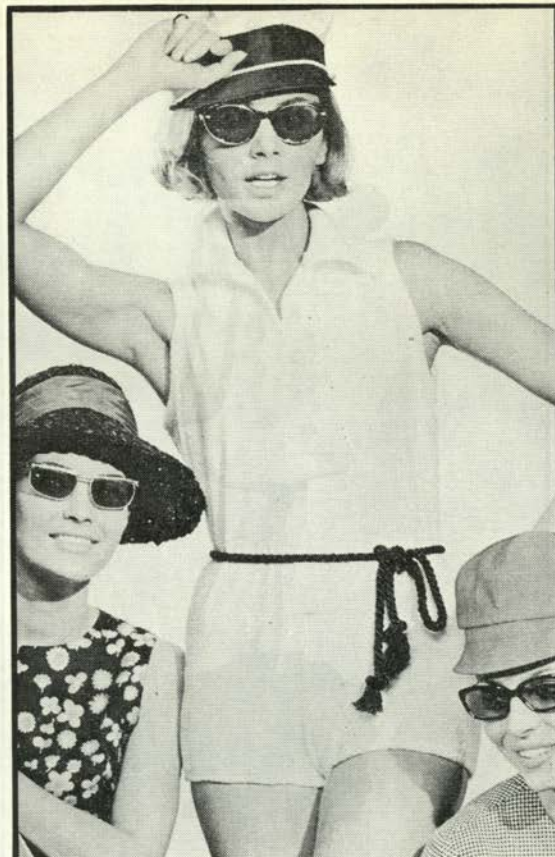




ネクタイの

**元町バザー**

神戸×元町1丁目 TEL (33) 1401・7031



あなたの夏を楽しむサングラス  
世界光学品豊富品ぞろえ

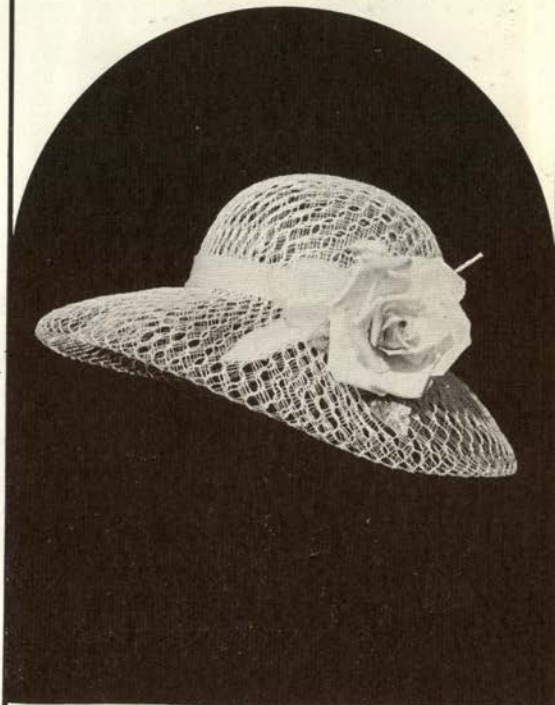
**服部メガネ店**

大丸前 TEL (33) 1123



美しさを創る  
 オートクチュール  
**アスター ニュートン**  
 コーベトアロード 33-1818  
 オーサカハンシン 361-1201

涼やかに夏のセンスを  
 生かすマキシンの帽子



婦 人 帽 子  
**マキシシン**

神戸・トアロード 東京・銀座3-2  
 TEL 神戸33-6711-3 TEL 東京535-5041